

【水彩画クラブ27】卒業後7年目の活動 2020年1月

◇第154回活動:2020年1月13日(月) 午後1時から 又エック研修棟 207室

仕上げてきた前回課題の『古代蓮・水城公園の水辺』を黒板に並べ、内ちゃん先生から画評を聞いた。



今日の活動から新課題『日光・大谷川の溪流』を描いていく。
各自宿題で、最上部にある対岸の岩石の黒い影部分に、黒色の水彩色鉛筆で淡いめに描いてきた。



1. 最上部の4マス描いていく。

① 岩石の影を描いていく。

1) 岩石に陽があたって白く見えるところに、マスキングをしていく。

マスキングペンの筆先を、ドライブラシ技法を使い白い部分の端を擦るようにぼかしていく。

2) 岩石の下側(水際)に見える白い水粒に、マスキングペンの筆先でチョンチョンと突つつくようにマスキングしておく。

3) 施してきたマスキングインクをドライヤーで十分に乾かしてから、黒っぽい紫色を細い小筆に取り、宿題で施してきた岩石の影を黒く描いていく。

4) 岩石表面に見える凸凹影やスジを、黒っぽい紫色トをつけた小筆の筆先を、ティッシュにチョンチョンと触れて余分な水分を取ってから擦るように岩の表情を描いていく。

② 岩石夫々の岩肌色を塗っていく。

1) 夫々の岩肌の色をつくる。

a) 茶系の岩肌 赤茶色と紫色を混色して水溶きしておく。

b) 紫系の岩肌 紫色に少し赤茶色を混ぜて作り、水溶きしておく。

2) 夫々の岩石の色を、課題写真を見ながら塗っていく。

岩石の色は淡い目に描いていく。

※ 今日の活動はここ迄で終了した。

自宅で、中央部に見える砂利面を描いていく。(白い石にマスキングし、全体に灰色を塗る。乾かしてから他の小石にダブルマスキング。乾かしてから砂利面に少し暗い灰色を全体に塗って仕上げていく。

2. 次回(1月27日(月))の活動予定 又エック研修棟 207室

次回までやってくる。

① 左側と右側に見える大きな岩石をデッサンし、影部分に黒の水彩色鉛筆でしるしをつける。

② 2号の平筆の筆先をマスキングインクに浸してから取り出し、乾かしてから筆先を3本に枝分かれさせて乾かしてマスキングペンをつくる。

◇第155回活動:2020年1月27日(月) 午後1時から 又エック研修棟 207室

③ 中央部までの水流は、ハケで水を塗ってからb色の青い水色で流れを意識しながら筆を動かして淡いめに塗っていく。

課題を見ながら、濃い水流にはb色を濃い目に流れを意識して描いていく。もう少し濃く見える流れでは、紫色をb色に今日の天気は朝から曇り空で、「埼玉は夕方から雨が降り出し、西側の山沿いは雪になるとの予報なので、午後4時終了を1時間早めて午後3時で終了しよう」と活動開始前に提案した。

課題『日光・大谷川の溪流』の2回目は、中央部左側と右側に見える大きな岩石を描いていく。

1. 左側と右側に見える大きな岩石を描いていく。

① 岩石の影を描いていく。

1) 岩石に陽があたって白く見えるところに、マスキングペンの筆先でチョンチョンとマスキングしていく。

2) 岩石の下側や横の水際にマスキングをする。

a) 見える白いしぶきに、マスキングペン先でチョンチョン突つつくようにマスキングする。

- b) 白く見えている波は、その形をマスキングペンで描くようにマスキングする。
- 3) マスキングインクをドライヤーで十分に乾かしてから、黒っぽい紫色を細い小筆に取り、黒の水彩色鉛筆で施してきた岩石の影を黒く描いていく。
- ※ 午後3時になったので今日の活動を終了した。
各自宿題で次回までに、両側の岩石を塗って仕上げてくる。
- ① 課題を見ながら岩石の表面を塗っていく。
- 1) 夫々の岩肌の色をつくる。
- a) 茶系の岩肌 赤茶色と紫色を混色して水溶きしておく。
b) 紫系の岩肌 紫色に少し赤茶色を混ぜて作り、水溶きしておく。
岩石の色は淡い目に描いていく。
- ② 右側岩石の直ぐ左に見える茶色っぽい岩を、同じ描き方で描いていく。
- 1) 黒い影を黒色水彩色鉛筆でしるしを付けてから、赤茶色で影を描いていく。
2) 課題写真を見ながら、岩肌を塗っていく。
3) 岩にあたる周囲の水やしぶきに、課題写真を見ながらマスキングする。
直ぐにドライヤーで十分に乾かしておく。
- ③ 前回描いてきた岩石群の書き残したところを水面にして、水面を描いてくること。
- 1) 水の色は、鮮青色に深青色を混色し、そこに暗青色を混ぜてつくる。
2) 水面と接する岩石の下側や上側の白いところに、予めマスキングペンで描くようにマスキングしておく。
3) マスキングインクをドライヤーで十分乾かしてから、先に作った青い水色を平筆に取り、課題写真を見ながら塗っていく。
直ぐに同じ色を小筆に取り、岩石下側や上側の白いところの水際を描いていく。
- ④ 今日描いてきた両側の岩石にも、水際のところに同じ水色を塗っていく。
2. 次回(2月10日(月))の活動予定 又エック研修棟 207室
次回は岩間を流れる溪流を描いていく。
- ◆第156回活動:2020年2月10日(月) 午後1時から 又エック研修棟 207室
活動開始の挨拶を済ませてから、直ぐに『大谷川の溪流』の3回目習作に入った。

自宅で描いてきた状態

- ① 両側の岩肌を課題写真を見ながら塗っていく。
- ② 溪流中央で流れの中に見える茶系の岩を描いていく。
- ③ 溪流の白いしぶきや白い波にマスキングをしてから、予めつくった水の色(マンガニーズにウルトラマリンを混色し、そこにインダンスレンを混ぜる)を最上部の岩の間や、正面の溪流を塗っていく。
- ④ ドライヤーで乾かしてから白い波の周囲を、水をつけた綿棒で擦ってぼかしていく
1. 大谷川の溪流を描いていく。
- ① 水の色をつくる。
- a) 黄緑色 緑色と黄色を混色してつくる。
b) 青い水色 鮮青色に深青色を混色し、暗青色を混ぜてつくる。
c) 緑がかった水色 b色に緑色を混色してつくる。
- ② 上部の岩群間に流れる水流は、b色を薄めに塗っていく。
岩群間の水は底が浅いことを表現するため、赤茶系の色を水際や所々に塗っていき、直ぐに周囲に水筆でぼかしていく。
- ③ 中央部までの水流は、ハケで水を塗ってからb色の青い水色で流れを意識しながら筆を動かして淡いめに塗っていく。
課題を見ながら、濃い水流にはb色を濃い目に流れを意識して描いていく。もう少し濃く見える流れでは、紫色をb色に少し混ぜた色を課題を見ながら塗っていき、直ぐに水筆で周囲をぼかしていく。
2. 中央部に見える左右の茶色っぽい岩から下への水流を描いていく。
- ① 白い波やしぶきなどにマスキングする。
4号平筆をマスキングインクに浸し、少し乾かしてから毛先を3本に枝別れさせて加工した平筆を使って、課題を見ながら”しぶき”を点々と描くようにマスキングしていく。
白い波は、波に沿って水筆で描くように水を塗ってから、マスキングペンで波を描くようにマスキングしていく。
- ② マスキングインクをドライヤーで十分に乾かしてから、水流部分全体に40mmハケで水を塗っていく。
- ④ 水溶きしたa色の黄緑色を同じ40mmハケに含ませて、全体に淡い目に塗っていく。
- ⑤ 塗ってきたところをドライヤーで乾かしてから、右下部分や左側の底辺に見える黄土色のカゲなどをダブルマスキングしていく。

- ⑤ マスキングインクをドライヤーで乾かしてから、水溶きしたb色の青い水色やc色の緑がかった水色を中筆や小筆に取り、課題を見ながら流れを意識してそれぞれ水流を描いていく。

※ 今日の活動はここで終了した。

各自次回までに仕上げて次回活動時に持ってくる。

3. 次回(2月24日(月))の活動予定 スエック研修棟 207 室

次回から習作していく課題写真『白馬岳を臨む』の写真が配布された。

宿題で用意してくること。

- ① 手本用の写真(A3判タテ形)2枚を接合部で貼り合わせ、手本台をつくる。
- ② 水張りしたF8(orF10)のウォーターフォード水彩紙にデッサンする。
- ③ 道路脇に見える積雪標柱は描いても、描かなくてもよい。
白馬岳山腹右側に見えるリフトは描かない。
- ④ マスキングをしてくる。
 - ・地平線と、雪原に生えているブッシュ
 - ・赤い木々を、木を意識してマスキングする。
 - ・白馬岳の白い雪